

練馬区立 中里郷土の森緑地

令和 7 年度モニタリング調査結果



PURPOSE & METHOD

目的

- ▶ 地域の生物相の解明
- ▶ 区民のみなさまに自然の魅力を発信するための材料づくり

調査方法

踏査により発見された動物類^{※1}全般、維管束植物を記録する。動物類は個体数を記録。植物類は基本的に開花結実状況^{※2}がみられるものを記録した。また、調査日以外に確認されたものがあれば追加で記録している。

1 中里郷土の森 園内調査

- ▶ 週に1回実施。
- ▶ 植栽株^{※3}を別途記録。
- ▶ 園内水辺の底生生物調査を年4回以上実施。

2 周辺緑地調査

- ▶ 月に1回実施。
- ▶ 中里郷土の森周辺の緑地を調査。

3 河川調査

- ▶ 年に1回実施。
- ▶ 白子川、石神井川の指定区域内を調査。
- ▶ 踏査の他、タモ網、投網による採取も実施。

※1：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類を対象とし、その他特記すべきものは別途記載。河川調査では魚類、甲殻類、その他底生生物も記録。

※2：シダ植物は年度の初認時に記録。その他、記録が無いものや特記すべきものうち、樹齢や管理状況により開花結実が期待できないものを別途記録。

※3：状況や記録から明確に植栽とわかる種。不明なものや逸出したものはいずれの調査でも他の植物と同様に記録している。

日次記録

中里郷土の森には解説員が常駐しているため、調査日以外に見られた野鳥とその他希少種や初記録種などを記録し、直近の調査結果に加えている。

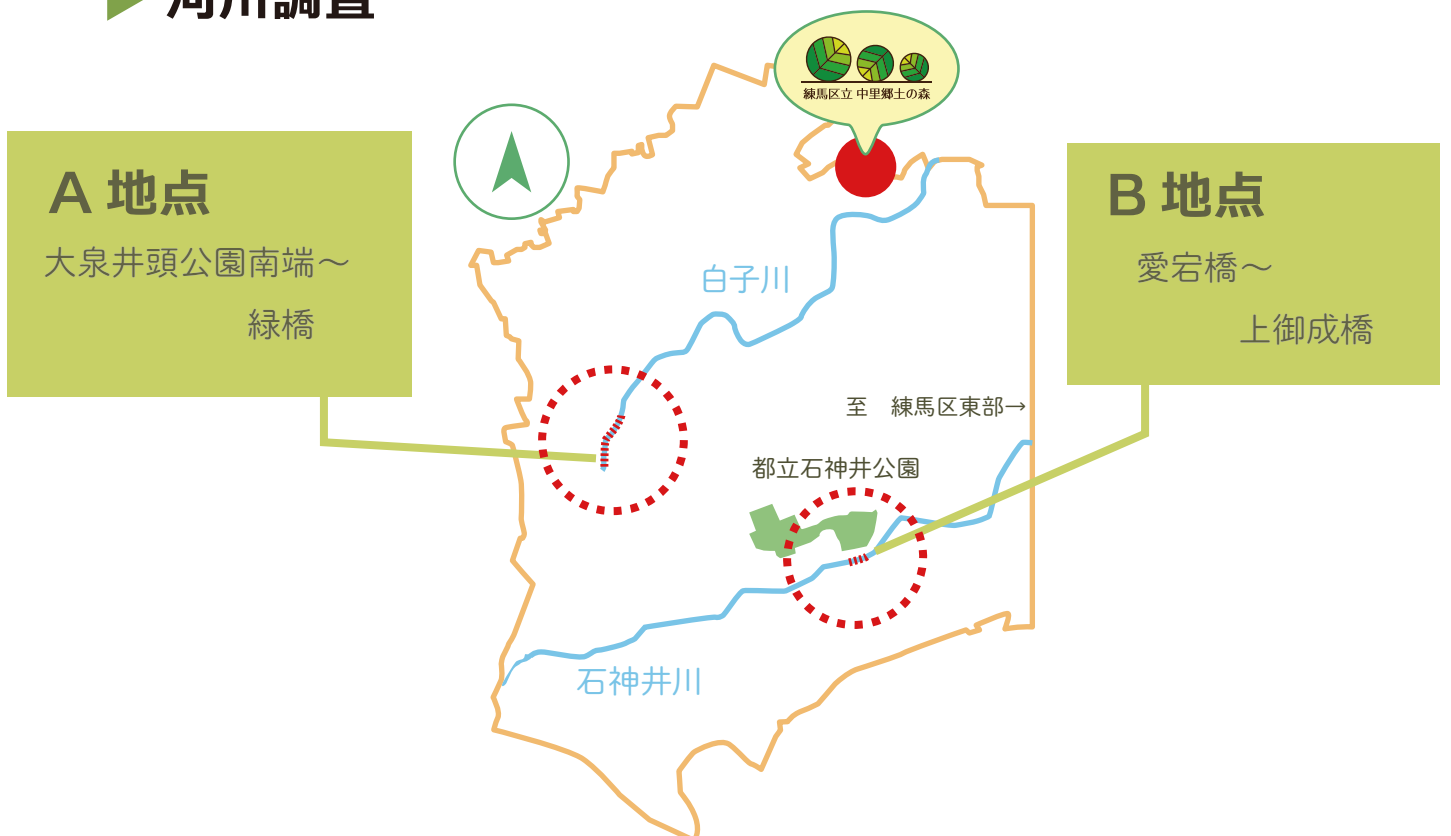


調査範囲

▶ 中里郷土の森とその周辺緑地



▶ 河川調査



RESULT

絶滅危惧種

ENDANGERED SPECIES

ヤマシギ



絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

今回初記録となった。目視で確認されたほか、写真のような被食痕も確認されている。夜行性のため、今まで見逃されていた可能性も高い。

チョウゲンボウ



絶滅危惧ⅠB類 (EN)

中里郷土の森で過去にも稀な記録があるが、今回の調査では複数回確認された。周辺の農地を利用しており、園内には通過などで訪れている。

ワスレナグモ



準絶滅危惧 (NT)

中里郷土の森園内で2度目の確認。地中に巣を作るが、いずれも徘徊している個体を確認している。園内に定着し、巣を作っている可能性が高い。

ランクは「東京都の保護上重要な野生物種（本土部）2020年版」区部のものを参照。

今回見られた絶滅危惧種

今回の調査では、都区部で絶滅危惧種とされている種を 42種 (NT, DD 含む) 確認した。なお、植栽や明らかな逸出等は含めていない。

種数自体は多くなかったが、チョウゲンボウやワスレナグモ、ヤマシギなど、今までの調査では記録が少ないか無かった種類が複数確認された。また、近年増加しているとされるアカアシオオオカミキリも確認されている。

調査範囲内や、その周辺の環境が変化している可能性がある。

また、東京都RDB2020では評価対象外となっているコムラサキ（昆虫）、クロカナブンなども確認された。

種名	みられた緑地	都区部RDB
ゴマギ	中里郷土の森	EX
モズ	中里郷土の森など	CR
ヤマブキソウ	中里郷土の森	CR
クサスゲ	清水山の森	CR
ヒガシニホントカゲ	ほぼ全域	CR+EN
ニホンカナヘビ	ほぼ全域	CR+EN
アカアシオオオカミキリ	稲荷山憩いの森	EN
チョウゲンボウ	中里郷土の森	EN
オオタカ	中里郷土の森など	EN
ツミ	中里郷土の森など	EN
ヤマシギ	稲荷山憩いの森	VU
オオミズアオ	中里郷土の森など	VU
ヤマトタマムシ	中里郷土の森	VU
フモトシケシダ	稲荷山憩いの森	VU
チョウセンガリヤス	八坂神社	VU

今回確認された絶滅危惧種の一部（詳細は別紙参照）

その他特徴的な種

キノガサタケ



もみじ山公園で確認。菌類は調査対象外だが、今まで確認されていなかった地点で大量に発生していた。ササ類の刈り取り後だったため、それが影響している可能性もある。

ヤナギイチゴ



白子川で確認。本来西日本を分布の中心とする種で、調査範囲内での確認はない。状況的に見落としの可能性は低く、分布が拡大しているか、逸出等の可能性もある。

コムラサキ



中里郷土の森で確認。放蝶個体の可能性は否めないが、本種は食草がヤナギ科であるため、園内のカワヤナギに誘致されたものと思われる。

外来種

中里郷土の森と周辺の外來種



令和6年度の調査で初めて確認されたチュウゴクアミガサハゴロモが、1年のうちに最普通種といえるほど多く確認された。侵略性が非常に高いものと思われる。令和5年度初記録のヘリチャハゴロモも増加している。

白子川・石神井川の外來種



タモ網により捕獲される動物類は、大半がアメリカザリガニとカワリヌマエビ属。石神井川はアメリカザリガニの密度が比較的低いですが、オオカナダモなどの外来沈水植物が繁茂している。白子川には、人為的に持ち込ま

れたと思われるハス、コウホネ属の一種が確認された。

特定外来生物

- ・アカボシゴマダラ
- ・オオカワヂシャ

その他生態系被害防止外来種

- ・シナサルナシ（キウイフルーツ）
- ・ワカケホンセイインコ
- ・フロリダマミズヨコエビ
...etc.

特定外来生物

- ・オオカワヂシャ
- ・ミズヒマワリ
- ・アメリカザリガニ（条件付）
...etc.

その他生態系被害防止外来種

- ・オランダガラシ（クレソン）
- ・オオカナダモ（アナカリス）
- ・ハビコリハコベ（グソッロスティグマ）
- ・キシウブ
...etc.

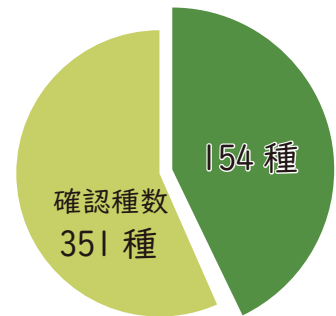
緑地ごとの特性と昨年度からの変化



中里郷土の森

夏の猛暑と乾燥により、昨年度までに比べカマキリ、バッタ類などの昆虫類が非常に少なかった。対して外来種であるチュウゴクアミガサハゴロモは非常に多く、次年度以降の動向に注意する必要がある。

この場所のみで確認



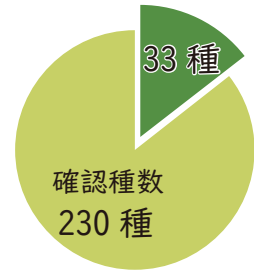
比較のため底生生物調査の結果は除いている。



もみじ山公園

昨年度に拡張部がオープンした際には、ムシトリマンテマなどの外来植物が新たに確認されたが、今回の調査ではカギザケハコベがわずかに確認された程度で、発生は工事による一時的なものだったと考えられる。6月にキヌガサタケが多数発生した。

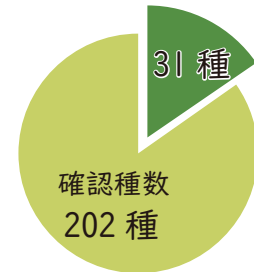
この場所のみで確認



白子川沿い（万年橋～越後山橋）

大きな環境の変化は無く、コサギやカルガモ、シオカラトンボなどの生息環境となっている。白子川に繋がる湧水池のある中里泉公園において、他所から持ち込まれたと考えられる植物が確認され、繁茂している。

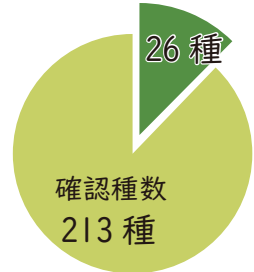
この場所のみで確認



清水山の森

定期的な草刈り管理などにより明るい雑木林が維持され、カタクリを始めとした多様な植物がみられる。冬季にはシメやハイタカなどの鳥類が多く飛来する。適度な維持管理により、地域の動植物にとって良好な環境が保たれていると思われる。

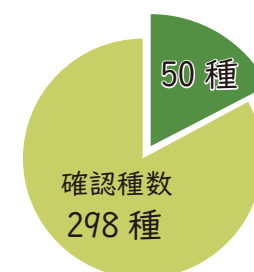
この場所のみで確認



稲荷山憩いの森

調査範囲内では最も面積の広い緑地で、多数の動植物が見られる。近年ササの刈り取りを広い面積で行ったことにより林床が明るくなり、一部区画でカタクリやタチツボスミレなどが多くみられるようになった。

この場所のみで確認

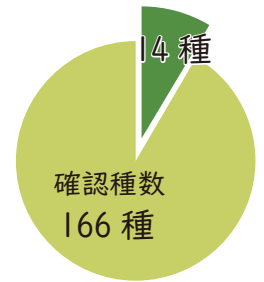




土支田八幡宮

全体的に鬱蒼とした社寺林といった環境だが、一部区画にはヒメウズが群生する林床や、クサイチゴなどが繁茂する草地など他の緑地にはあまりない環境が見られる。ニホンカナヘビなどの良好な生息環境となっている。

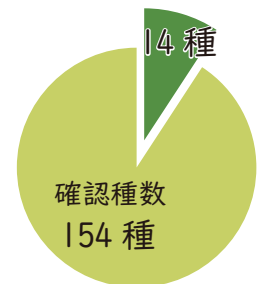
この場所のみで確認



越後山憩いの森

クヌギやコナラの存在する雑木林で、一部のコナラやクヌギから出る樹液に、ゴマダラチョウやカナブンなどの昆虫類が見られた。林床に大量の落ち葉が積まれている場合があり、キンランやギンランなどの発生に影響している可能性がある。

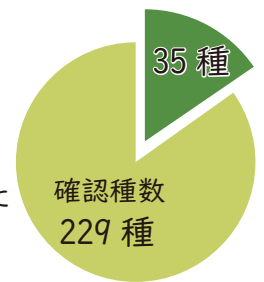
この場所のみで確認



八坂神社

富士塚部分にはアキカラマツやツリガネニンジンなど明るい草地や林縁などに見られる植物が維持されている。神社境内にて都区部絶滅となっているフタバムグラが確認されたが、植栽の根鉢などについて非意図的に持ち込まれたものである可能性がある。

この場所のみで確認



河川調査



白子川

特に外来植物の抜き取りが行われている源流部では、カンガレイやウキヤガラなどの都区部では希少になりつつある在来植物が多く見られた。下流に下っていくにつれ、ミズヒマワリやキショウブなどの侵略的外来植物が多くみられるようになる。



石神井川

定期的に増水して流されるためか、アメリカザリガニの密度が低い。そのため、白子川や区内の他の湿地環境に比べて沈水植物の量が非常に多く、アイノコイトモなどがよく見られる。一方で外来の沈水植物であるオオカナダモも非常に多く見られる。